

平成26年度 スーパー食育スクール事業 事業結果報告書

都道府県名	京都府
学 校 名	京都市立 下京渉成小学校
学校のホームペ ジアドレス	http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=104050

1 取組テーマ

食育を通じた食文化理解と実践的・主体的態度の育成

2 栄養教諭の配置状況

栄養教諭配置年 及び人数	平成 22 年より（平成 22 年開校）	1 人
配置されていない 場合の対応状況		

3 推進委員会の構成

検討委員長	熊本孝彦	下京渉成小学校長
委員	鎌田高雄	学校運営協議会理事長（稚松学区）
委員	南野辰雄	学校運営協議会理事（菊浜学区）
委員	森 清美	学校運営協議会理事（皆山学区）
委員	土屋善弘	学校運営協議会理事（植柳学区）
委員	奥田正治	学校運営協議会理事（崇仁学区）
委員	中山玲子	京都女子大学家政学部食物栄養学科教授
委員	西脇悦子	学校地域教育支援部部長
委員	吉村正己	料亭 枳殻荘 料理長
委員	中野ひとみ	ホテルグランビア京都 サービスマネージャー
委員	尾崎誓子	下京渉成小学校 PTA 会長（推進委員副委員長）
委員	山中初美	下京渉成小学校 PTA 保健体育委員長
委員	林 道明	下京渉成小学校教頭
委員	東谷祐子	下京渉成小学校主幹教諭
委員	丸本京子	下京渉成小学校教務主任
委員	高木俊輔	下京渉成小学校研究主任
委員	稲岡慶子	下京渉成小学校栄養教諭
委員	田中幸代	下京渉成小学校総務部
委員	三上 歩	下京渉成小学校総務部
委員	山口 祐	下京渉成小学校給食主任・調査研究部長
委員	久保亜利沙	下京渉成小学校食育教材部長
委員	棚橋美奈子	下京渉成小学校養護教諭
委員	松島弘美	下京渉成小学校給食調理員
委員	根崎 薫	下京渉成小学校給食調理員

委員	俣野泰志	京都市教育委員会	体育健康教育室	給食課長
委員	河合俊輔	京都市教育委員会	体育健康教育室	給食担当係長
委員	西川真理子	京都市教育委員会	体育健康教育室	指導主事
委員	小川初美	京都市教育委員会	体育健康教育室	専門主事

4 連携機関及び連携内容

連携機関名	連携内容
京都女子大学	データ分析・資料提供・理論研修
枳殻荘	出前授業・フィールドワーク協力
ホテルグランビア京都	出前授業・フィールドワーク協力
京料理 OSASAYA	出前授業協力
和菓子	出前授業協力

5 実践内容

事業目標
<p>食育推進を通して、</p> <p>①主体的な意欲・態度育成とコミュニケーション力の向上</p> <p>②味覚形成への基盤づくりと感受性の育成</p> <p>③食の伝統文化の尊重と継承の態度の育成（6ヵ年を通して）</p>

評価指標
<p>・主体的に学習や課題に向かう意欲が向上し、コミュニケーション力が向上している。</p> <p>SETテスト「課題関与意欲」「自己向上意欲」の項目において、現6年生の2年前の項目がそれぞれ11.7ポイント（全国平均11.4ポイント）、12.4ポイント（全国平均12.1ポイント）であったので、1ポイントの向上を目指す。また、同学年は「情緒安定性」（特に「友達と一緒にいてもふとさびしくなる」「小さなことでも気になって一つのことに集中できない」の質問項目）において全国平均を下回る8.9ポイント（全国平均9.4ポイント）であった。地域・家庭と連携した豊かな食体験を通し、また、学習において食に関する課題を自ら設定し、追究・表現する学習を積み重ねることで、自己有用感が高まり、人との関わりへの不安が少なくなり、コミュニケーション力が向上すると考える。その結果、この項目における数値も向上するのではないかと。そこで、本年度はこの項目において1ポイント以上の向上を目指す。</p> <p>・食を通した豊かな人間性を身に付けている。</p> <p>例えば、「食事のマナー」、地域に伝わる「食文化」、「食を介した人と人とのつながり」に気付き、自分の食生活において実践していることが、コミュニケーション能力や意欲の向上につながっている。</p> <p>昨年度本校で作成・実施した食育アンケート結果では、「京野菜や京都の食文化について家庭で話題に出ているか」という質問に対し、全校で「している・時々している」が家庭、児童共に70%という結果であった。また、給食の献立を家庭で作ってもらっているか（作っているか）という項目においては、「作っている・時々」が家庭・児童共に60%という結果であった。今年度はこの項目で5%以上の向上を目指す。</p>

評価方法
<p>・「SET（Self Enhancement-support Test—自己向上支援検査）」の実施と分析（学習領域：①課題関与意欲②他律的意欲③自己向上意欲④学習の仕方⑤学習効力感 社会生活領域：⑥情緒・安定性⑦集中力・忍耐力⑧自立体験⑨社会的効力感）本校では、平成24年度に実施した。その際のデータでは、課題解決する力や主体的な態度形成に弱さが見られた。給食や栽培活動、調理、地域の食文化に携わる方々との関わりなど、食を通した豊かな体験活動を通して、学習意欲やコミュニケーション能力・意欲の向上を見とっていく。</p>

- ・児童・保護者を対象とした意識調査の実施と分析（昨年度2回実施済。今年度の取組を踏まえ、経年変化を見とる。）

内容は、食事の重要性、心身の健康、食文化に関することなど。昨年度は、それぞれの学年で取り組んだ内容の質問項目において数値の向上が見られた。今年度は、主体的な意欲にもつながる家族の食に関する体験（幼少期の手伝い、栽培、調理体験など）も調査の視野に入れ、豊かな体験が豊かな心をはぐくむことを学習と合わせて調査・検証していく。



評価指標を向上させるための仮説(道筋)

学習場面において

- ・指導者が与えるのではなく、子どもが自ら考え、発見し、主体的に課題追究に向かえる単元を構想し、学習の進め方や付けたい力を明確にした授業が展開されること
- ・対話を重視し、学び合うことによる自分の学びの深まりを実感し、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するため、交流の場や手立ての実践と検証を行うこと
- ・言語活動を充実させ、食育を通して磨かれた豊かな感性を言葉で表現するための語彙力を高める取組の推進と、表現するための手法や手立てを検討し、実践すること
- ・児童に身に付けさせたい食に関する能力については、栄養教諭が示す「食に関する指導の年間計画」を基に学級活動や各教科・領域の単元を構想していく。
- ・栄養教諭の入り込み授業、教材研究のアドバイザーなど、様々な形で各学年の授業づくりに積極的に参画する。
- ・栽培活動や調理活動、京都の食文化やそれに携わる人々に触れる学習など、食を通した豊かな体験活動の実施。栄養教諭より、全学年で栽培活動、調理体験ができるよう、年間計画が示され、実施してきた。今年度は、その体験が児童の意欲やコミュニケーション力につながることが検証できるよう、検査項目も意識した取組をさらに進める。

給食を中心教材とした学校の取組において

- ・食育集会など、年間を通して各学年、全校での食の取組を交流する機会の設定。
- ・給食を中心教材として、豊かな感性と表現力を育むための取組を推進する。（栄養教諭を中心に「給食教材部会」を組織し、給食を五感で味わい、言葉で表現する「あじわいタイム」の実施、給食で使われている食材や京都の伝統食に目を向け、家庭での話題につなげるための児童、家庭への発信を推進する。）

保護者・地域・関係機関への発信及び協力体制において

- ・地域食育講座をはじめ、子どもを取り巻く家庭や地域と共に学び、考える取組の推進。食に関する話題の提供は、京都女子大学の中山教授からの助言を参考に、栄養教諭を中心として内容検討し、発信していく。
- ・食を通した体験活動の実施やアンケート項目の設定および結果考察において京都女子大学と連携した取組の推進



実践内容

○具体的な取組

- ・食に関する学習を中心に、主体的に学習に向かい、自ら課題を設定し、追究する授業の創造、児童が学ぶ喜びを味わえるような授業実践と検証、対話を重視し、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するための学習の場における意見交流の場の設定や手立ての実践と検証（6月：5年生、7月：3年生、9月：1・6年生の授業を通した研究・研修を実施）

- ・栄養教諭より示された「食に関する指導の年間計画」を基に学級活動や各教科・領域の単元を構想し、「食育を軸とした年間取組計画表」を全学年作成し共通理解を図った。
- ・食育集会（からたちタイム）を年間で計画し、全学年の食に関する取組を発表し、全校または地域、保護者に発表する機会を設定した。10月現在まで、3年生（春が旬の食べ物について給食献立を基に学んだことを図鑑として作成したこと）、5年生（福井県と京都が鯖街道でつながりがあったこと、福井県小浜市立小浜小学校と食を通じた交流をしていること）を発表済み。
- ・栽培活動や調理活動、京都の食文化やそれに携わる人々に触れる学習など、食を通じた豊かな体験活動の実施。
6年生総合的な学習の時間「おこしやす京都大作戦」の学習の一環として、地域の料亭「枳殻荘」を訪ね、料理長吉村様（食育推進委員）をはじめとする従業員の方々からおもてなしの心や枳殻荘での取組のお話を伺ったり、おもてなしを受けたり、料亭の雰囲気を感じたりするなどして、京都の伝統文化の魅力を体験した。
- ・食育アンケートを6月に実施、京都女子大学にデータ化を依頼。結果を基に各学年の傾向を見取り、全教職員で共通理解を図る（6月）。
「第1回食育推進委員会」を実施（7月）。食育アンケート結果を公表し、本校児童や家庭の実態を共通理解するとともに、今後の取組について検討した。
- ・S E T検査を6月に実施。7月に結果が返ってきたことを受け、各学年で傾向を分析、校内研究の指導案や研究発表会（1月）の指導案に分析内容を記載。
- ・6月より給食時間はじめの5分間を「あじわいタイム」に設定し、あじわいを交流する。毎日学級1名がその日の給食の味わいを文に書き表し、掲示板に掲示している。毎週金曜日にその週で最も表現が豊かであった物を給食教材部会で選定、校内放送にて発表し、その表現を全校で共有する機会を設定した。
毎月一回、「あじわい交流」として、全校児童がその日の給食の味わいを書き表す取組を6月より実施。全校児童の表現を掲示し、全校児童、教職員及び保護者や地域の方にも見られるようにした。
- ・地域食育講座をはじめ、子どもを取り巻く家庭や地域と共に学び、考える取組の推進。食に関する話題の提供は、京都女子大学の中山教授からの助言を参考に、栄養教諭を中心として内容検討し、発信した。
- ・5年生の総合的な学習の時間「京野菜ソムリエになって京野菜の魅力を伝えよう」の学習で、伝統的な京料理、革新的な西洋料理において京野菜を使っている料亭やレストランの方からお話を伺う機会を設け、京野菜がどのように料理に活かされているのか、京野菜の魅力は何か、お話を伺った。（10月）
- ・京都女子大学中山教授に食育アンケートとS E T検査結果のクロス集計を依頼。食の体験、知識、家庭状況と児童の自己向上意欲との関わりをデータ化した（10月）。
- ・味覚形成の調査のため、学校給食を基に京都女子大学と連携し、児童にアンケート調査を実施、給食時間の「あじわいタイム」でのあじわいを表現した文との関連を探った。（10月）
- ・福井県小浜小学校6年生児童が来校、京都と若狭の食文化の魅力を交流した。（10月）
- ・食育アンケート（児童・保護者）およびS E T検査の第2回を実施。結果を考察。（12～1月）
- ・4年生の総合的な学習の時間で、地域の和菓子屋「鍵長」に協力を依頼し、和菓子づくりを体験させてもらう学習を行った。（12月）
- ・5年生の総合的な学習の時間で、地域の方や保護者を招き、京野菜を使った料理をふるまいながら野菜や料理の魅力を伝える試食会を実施した。（2月）
- ・6年生の総合的な学習の時間に、京都大学留学生の方を招き、京都の食文化を含む「おもてなし文化」と、おすすめの観光スポットを紹介する「おこしやす京都大作戦」を実施。（2月）

6 成果

- ・「あじわいタイム」に継続して取り組んできたことで、子どもたちの表現の幅が広がった。
- ・全校発信する「からたちタイム」での取組発表を保護者にも周知したことで、多くの保護者の方に参観いただき、家庭への発信につながった。
- ・各学年の取組の成果物や「あじわいタイム」での子どもたちの表現を校内に掲示しておいたことで、児童、保護者、地域の方に周知することができた。
- ・SET検査結果から、現6年生の「情緒安定性」の項目は6月8.4, 1月10.0 (共に全国9.5) となり、全国平均を上回り、2年前の数値8.9ポイントも1.1ポイント向上した。
- ・食育アンケートでは、「京野菜や京都の食文化について家庭で話題に出ているか」の項目は、「ある、時々ある」との回答が児童6月59.4%, 1月64.3%, 保護者6月77.1%, 1月84.7%とどちらも大きく向上した。特に保護者では、昨年の数値70%を大きく上回る結果となった。「給食の献立を家庭で作ってもらっているか(作っているか)」の項目では、「している・時々」との回答が児童6月56.7%, 1月61.3%, 保護者6月56.7%, 1月67.5%とこちらも大きく向上した。数値目標である「60%」をどちらも上回り、保護者は数値目標を超える7.5%の向上であった。

7 スーパー食育スクール事業の取組状況の情報発信

- ・平成26年度「食育白書」に本校の取組が掲載されている。
- ・学校ホームページにて情報を発信している。
- ・京都新聞、産経新聞、読売新聞に本校の取組が掲載された。
- ・読売テレビ「Ten」、KBS京都テレビにて、本校の取組が紹介された。
- ・徳島県井沢小学校との取組交流(8月)を実施した。
- ・学校訪問(教育視察)の受け入れ(徳島県、東京都、北海道、福井県・近畿農政局)、学校視察に来校された各団体への本校の取組発信、給食の様子を中心に子どもの様子を見ていただく機会を設定した。
- ・京都市立学校に配布する給食献立表(1月号)に「あじわいタイム」の取組と児童の作文を掲載。

8 今後の課題

- ・SET検査結果をみると、現6年生の「課題関与意欲」は、6月10.8, 1月9.6 (共に全国11.1), 「自己向上意欲」は6月11.2, 1月10.8 (共に全国11.5) と、2年前の数値および全国と比較しても低い数値となった。食への関心と学習への関心を結ぶ「自己向上意欲」を高められる授業改善に今後も取り組む必要がある。
- ・食育アンケートより、「朝食を一人で食べることが多い」と回答した児童は6月25.5%, 1月27.7%, 夕食も6月7.1%, 1月5.2%と、学校全体で10人強いることが分かった。「親子一緒に調理経験がある・時々ある」という回答が児童6月70%, 1月66.5%, 保護者6月68.6%, 1月70%であった。家庭における親子で過ごす時間や関わり合いを増やす取組を学校から発信したり提案したりしていくことが、児童の人格形成に大きく影響を与えると考えられるので、今後も取組を推進したい。